

令和8年度

平川市議会議員研修視察

(市政公明)

報 告 書

研修視察テーマ

- (1) 「天童市子育て未来館げんキッズ」視察について
【山形県天童市 様】

葛西 勇人

(1)「天童市子育て未来館げんキッズ」視察について

ア 研修日時

令和8年10月22日（木） 午前11時45分～

イ 研修場所

天童市子育て未来館げんキッズ

- ・住所：山形県天童市芳賀タウン北二丁目7番東根市中央一18号
- ・電話：023-651-8240

ウ 説明対応

東京ドームグループ（げんキッズの指定管理者）職員1名

エ 参加者

中畑一二美議員、葛西勇人議員

オ 研修目的

冬季や雨天でも子どもが体を動かせる屋内遊び場の整備と、子育て家庭への支援のあり方を検討するため、「山形県天童市の子育て未来館げんキッズ」を訪問し、施設職員から説明を受けた。

最も参考となる点は、年齢や発達に応じた遊びの空間に、一時預かり、保護者向け講座、交流、相談へのつながりを組み合わせていることである。施設整備とともに、職員配置や安全管理、日常の声かけを含む運営の仕組みを検討する必要がある。これらの取組を学び、平川市における子育て環境の充実に生かすことを目的とした。

カ 研修結果

(ア) 施設の基本概要

項 目	内 容
所在地	山形県天童市芳賀タウン北二丁目7番18号
開 館	平成27年5月21日
規 模	鉄骨造2階建て 延床面積2,226㎡
屋外等	緑地広場約2,000㎡ 駐車場約200台
一般利用	小学校6年生までの子どもと保護者の同伴利用 無料
開館時間	午前9時から午後7時まで
休館日	毎月第3水曜日 祝日の場合は翌日 および1月1日

(イ) 年齢や発達に応じた遊びの環境

① 乳幼児が安心して過ごせる空間

館内にはハイハイ広場、ゆめ広場、ぼうけん広場があり、年齢や発達に合わせて遊べる

構成となっている。現地では、2歳以下の子どもに利用を限るエリアがあるとの説明を受けた。**乳幼児と活動量の多い子どもの動線を分けることは、接触の危険を減らし、保護者の安心にもつながる。**各エリアの厳密な対象年齢は現行表示の確認が必要である。

② 全身を使う大型遊具

大型滑り台、登る遊具、クライミング、トランポリン、ボールを投げる遊びなどを見学した。滑り台には複数の種類や登り方があり、子どもが自分で挑戦する遊び方を選べる。的をめがけてボールを投げる場面もあり、単に体を動かすだけでなく、目標を意識して動作を試す機会となっていた。

遊びの内容	視察から捉えた役割
登る 滑る 跳ぶ	全身運動への意欲を引き出し、発達に応じた挑戦の機会をつくる
的を狙って投げる	目標に合わせて動作や力加減を試せる
年齢別の空間	小さな子どもの安全と、年長児の活動量の両立を図る
休憩を挟む	疲労や興奮に応じて遊びを中断し、落ち着ける場所を確保する

③ 屋外での遊びとの組合せ

屋外では縄跳びや竹馬などで遊べるほか、夏季には地下水を利用した水遊びもできるとの説明があった。見学時は水遊びを実施していなかった。屋内だけで完結させず、天候や季節に応じて遊び方を広げる構成が参考となる。

④ 利用対象と家族での来館

子どもだけ、大人だけで遊戯利用する施設ではなく、**保護者同伴が基本**である。中学生を保護者として扱わないとの説明を受けた。対象児のきょうだいとして中学生も同伴入館できるとの説明があった一方、公式利用案内は**遊具の利用を小学生以下としている**。同伴入館の可否と遊具利用の可否は分けて確認する必要がある。

(ウ) 子どもの遊びと保護者支援の一体的な提供

① 講座参加中の預かりによるリフレッシュ支援

ヨガや骨盤ケアなどの講座を実施し、保護者が2階の研修室等で参加している間、小さな子どもを保育士が一時預かりするとの説明があった。**館内イベントや講習会参加時の一時預かりは無料**と公式案内にも記載されている。講座自体の参加料金は、一律無料とはせず個別に確認する必要がある。

② 日常の用事にも利用できる一時預かり

現地では、美容院や仕事などの**用事がある場合にも利用でき、1時間500円、1日**

最大5時間まで預かるとの説明を受けた。公式案内では生後6か月以上から就学前までが対象で、事前登録と予約が必要となっている。

遊び場として日頃から利用している場所に預かり機能があることは、家庭の支援につながるきっかけになり得る。

③ 保護者同士の交流と情報提供

保育園や幼稚園等の情報を館内で得ることができ、子どもを遊ばせながら保護者同士が情報交換できる。交流の催しも毎月実施しているとの説明があった。市役所へ相談に行くことにためらいのある保護者も、日常の来館を通じて必要な情報に触れられる点が特徴である。

④ 日常の会話から相談につなぐ職員の役割

各エリアにいる職員が保護者と話しやすい雰囲気をつくり、相談内容に応じて行政につなぐとの説明を受けた。遊具の見守りだけでなく、子育て家庭の悩みを受け止める役割がある。

保育園等を利用していない家庭が、地域の支援と接点を持つ場所としても参考となる。

⑤ 親子が滞在しやすい設備

身長や体重を測れる場所、授乳やおむつ替えに対応する設備、子ども用のシャワー、持参した弁当等を食べられる休憩場所を確認した。

シャワーは遊び中の排せつや嘔吐等への対応を想定しているとの説明があった。

施設内で食事の提供は行っておらず、自動販売機を除き飲食物は持込みが基本となる。

以上、これらの支援は、保護者が気分転換や用事のために子どもを預け、職員や他の保護者と交流する機会をつくっている。孤立の予防や負担軽減への寄与が期待されるが、効果の程度を示す調査結果は今回確認していない。

(エ) 安全管理と施設運営

① 受付と出入口の管理

保護者には受付済みであることを識別できる首掛けのホルダーを渡し、職員が確認できるようにしていた。玄関にも職員を配置し、子どもだけの退出や、保護者が子どもを残して外出することを防ぐ運用としている。

一般の親子利用と、一時預かりの手続きは区別される。

② 遊具付近の見守りと持ち物の管理

遊具付近に職員を配置し、安全確認や清掃を行っているとの説明があった。

アクセサリ、鍵、ポケット内の物などは、引っ掛かりや落下、遊具の破損につながるため、受付や遊具利用時に注意を促している。100円が返却されるロッカーを設け、

荷物を預けやすくしていた。

③ 事故への備えと説明内容の扱い

現地では転落や頭部の負傷、救急搬送の事例があること、運営会社と市で保険に加入していることが説明された。ただし、補償範囲や保険適用の判断、責任分担を確認したものではない。保護者の見守りが必要という利用条件だけで、施設側の責任が免除されると結論付けることはできない。

④ 人員配置と指定管理

指定管理による運営で、説明時点では開館当初から同じ会社が運営し、3期目であるとの説明を受けた。また、**スタッフは全体で約30人**との説明があった。この人数は同時に勤務する人数や全職員数を意味しない。

安全管理、清掃、相談、一時預かりに必要な職種や時間帯別の配置は、別途確認を要する。

⑤ 利用状況と広域からの来館

現地説明では、**平日の来館者はおおむね200～300人、雨天の土日等は1,500～2,000人になる場合がある**とのことであった。土曜日は宮城県からの来館者が約4割との説明もあり、岩手県、秋田県、福島県等からの利用にも言及があった。いずれも説明時の概数で、年度実績や集計方法は未確認である。

⑥ 維持管理と更新への対応

職員による継続的な清掃と、専門的なメンテナンスを行っているとの説明があった。開館後も清潔な状態を維持する一方、大型遊具等の更新を検討しているという。更新対象や周期、費用負担は未確認であり、初期整備費と別に将来の更新費を見込む必要がある。

(オ) 主な質疑応答

以下は、現地でのやり取りを趣旨に沿って再構成した要旨である。

■質問1：子どもだけでも利用できるか。

(回答要旨)

保護者との同伴が基本で、子どもだけの利用はできない。中学生は保護者として扱わない。

(整理)

対象児と中学生のきょうだいの同伴入館について説明があったが、公式案内では中学生以上の遊具利用は不可となっている。

■質問2：小さな子どもと年長児の遊ぶ場所は分かれているか。

(回答要旨)

年齢や発達に応じたエリアを設けている。2歳以下の子どもに限定する場所もある。それ以外のエリアは、表示や子どもの状況に応じて利用する。

■質問3：保護者が講座を受けている間はどうするか。

(回答要旨)

保育士が子どもを預かり、保護者がヨガや骨盤ケアなどに参加してリフレッシュできるようにしている。館内講座等への参加中の一時預かりは無料である。

■質問4：講座以外の用事でも預けられるか。

(回答要旨)

美容院や仕事などの用事でも利用できる。1時間500円で、1日最大5時間まで。

(公式補足)

対象年齢、登録、予約等の条件があるため、利用に先立つ手続きが必要となる。

■質問5：どの程度の来館者がいるか。

(回答要旨)

平日は200～300人程度。雨天の土日等は1,500～2,000人になる場合があり、県外からも多く来館する。宮城県からの利用が多い。

(留意点)

親子の合算人数か、延べ人数かなど、統計上の定義は未確認。

■質問6：事故やけがはあるか。

(回答要旨)

転落等によるけがや救急搬送の事例はある。保護者の見守りを求め、遊具付近の職員配置や持ち物の確認を行っている。保険にも加入している。

(留意点)

個別事故の責任や補償の適否を判断できる資料は確認していない。

■質問7：建設や遊具の更新にはどの程度の費用がかかるか。

(回答要旨)

用地を含む整備費について「約14億円」と聞き取れる発言があった。遊具は要望を踏まえた特注との説明があり、今後の更新も検討している。

(留意点)

費用の聞き取りは不明瞭で、総事業費の確定値としては扱わない。財源内訳、年間運営費、更新費も未確認。

(カ) 視察で確認できた意義と課題

施設では、冬季や雨天の運動機会、親子の交流、一時預かり、保護者向け講座を同じ場所で提供している。遊びに来た家庭が、情報や相談にも自然につながる運営が参考となった。ただし、来館者数の多さをもって、出生数の増加や移住定住への効果が実証されたと評価することはできない。

運営上の課題としては、混雑時の安全確保、専門人材の確保、清掃や衛生管理、事故記録と再発防止、遊具の更新費用などが考えられる。これは視察から整理した検討課題であり、天童市が公式に示した課題一覧ではない。

(キ) 平川市での検討に向けた示唆

平川市で屋内遊び場を検討する際は、乳幼児向けの安全な場所と、小学生が十分に体を動かせる場所の双方を想定する必要がある。その上で、休憩、授乳、おむつ替え、飲食、相談など、親子の滞在を支える機能を組み合わせたい。

新築、既存公共施設の改修、商業施設等の活用を、利用圏域、冬季の交通、必要な面積や天井高、見通し、駐車場、維持費の観点で比較することが考えられる。げんキッズと同規模を前提とせず、**必要な機能を定めてから規模や配置を検討することが適切**である。

運営計画では、遊具を見守る職員、保育士、相談対応の役割と配置を明確にし、開館時間や混雑時の受入れ方法と合わせて費用を試算する。県外からの利用が多いという現地説明も踏まえ、広域利用を想定する場合は、周辺自治体や県との役割分担も検討対象となる。

(ク) 追加確認が必要な事項

今後、以下の点の追加確認が必要である。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 用地費を含む総事業費と財源内訳② 年間運営費、指定管理料、修繕費③ 年度別来館者数と居住地別の集計方法④ 職種別人数と時間帯別配置⑤ 事故件数、点検手順、保険内容⑥ 一時預かりの定員と利用実績⑦ 遊具の更新計画⑧ 保護者の負担軽減や満足度を把握する調査の有無。 |
|---|

太陽光パネルをガラスに組み込んでいるとの説明、市のフリーWi-Fiに関する説明もあった。設備仕様や発電実績、Wi-Fiの利用条件は未確認である。

(ケ) 所 感

今回、「天童市子育て未来館げんキッズ」を視察し、**天候に左右されずに子どもが思い切り遊べる環境と、保護者を支える機能を一体的に整備することの重要性を実感**した。

館内には、乳幼児から小学生まで、年齢や発達に応じて遊べる空間が設けられ、滑り台やクライミング、トランポリンなどを通じて、子どもたちが自ら挑戦し、全身を使って遊ぶ姿が見られた。冬季に屋外での活動が制限される平川市においても、年間を通じて運動や交流の機会を確保する屋内遊び場の必要性を改めて感じた。

特に印象に残ったのは、**保護者への支援が充実している**点である。ヨガや骨盤ケアなどの講座への参加中に子どもを預けられるほか、日常の用事にも利用できる一時預かりがあり、保護者が安心して自分の時間を持てる仕組みが整えられていた。また、職員が保護者に声をかけ、日常の会話から相談を受け止め、必要に応じて行政につなぐ取組は、**子育て家庭の孤立を防ぐ**上でも参考となった。

こうした機能を支えているのが、指定管理者である東京ドームグループによる**30名のスタッフの管理体制**である。受付や出入口の確認、遊具付近での見守り、清掃・点検に加え、大規模でない遊具のリニューアルを不定期に実施するなど、安全性と魅力を維持するための日常的な運営の重要性を学んだ。

平川市で今後、屋内遊び場を検討する際には、遊具の種類や施設規模とともに、一時預かり、保護者の交流、相談支援まで含めた機能を考える必要がある。その上で、新築や既存施設の活用などを比較し、人員配置、維持管理費、将来の更新費を見据えた持続可能な運営を検討すべきである。

今回の視察で得た学びを、子どもが健やかに育ち、保護者が地域の中で安心して子育てできる環境づくりに生かしていきたい。

(コ) 写 真



ボールプール



ふわふわトランポリン



ぼうけん広場



ぼうけん広場（上から見た写真）



はしご



滑り台1



滑り台2



クライミング



たんけんトンネル



どうくつシアター



注意書き



年齢制限表示 1



年齢制限表示 2



年齢制限表示 3



研修室



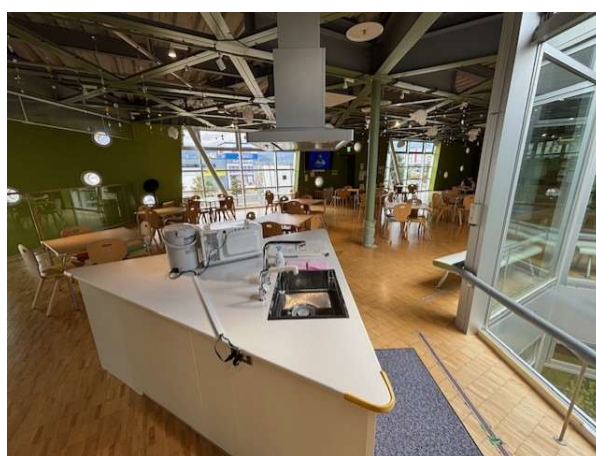
授乳・オムツ替えルーム



よみきかせコーナー



子育て情報コーナー



子育てカフェ



もりの広場



竹馬など

■東根市の「けやきホール」と天童市の「げんキッズ」の主な相違点について

両施設の大きな違いは、けやきホールは「子どもが自ら遊びを生み出し、挑戦すること」への関わりが特徴的であり、げんキッズは「子どもの遊びと保護者への支援を一体で提供すること」が特徴的であると整理できます。

以下は視察報告に基づく比較です。両施設とも子どもの成長と子育て家庭を支えており、視察で確認できた重点の違いを示しています。

比較項目	東根市「けやきホール」	天童市「げんキッズ」
基本的な考え方	子どもが自分で遊びを選び、工夫し、挑戦する「遊育」を重視する。	遊び、一時預かり、交流、相談を組み合わせ、親子の子育て生活を支える。
遊びのつくり方	おもちゃを増やし過ぎず、自由に動き、遊びを考えられる余白を残す。光や景色、音も遊びに生かす。	滑り台、クライミング、トランポリン、的当てなど、多様な遊びを用意し、年齢や発達に応じて選べるようにする。
成長を促す工夫	はしごの角度やネットの経路に難易度の違いを設け、「次はここまで」という段階的な挑戦と達成感を促す。	乳幼児向けのエリアと活動的に遊べるエリアを設け、発達に合った運動や親子の遊びを支える。
利用対象と来館方法	幅広い年代が利用する。現地説明では、小学生以上は受付等の条件を満たせば子どもだけでも利用できる。遊具には個別の制限がある。	一般の遊具利用は小学校6年生までの子どもと保護者の同伴が基本。遊具利用も小学生以下を対象とする。
職員の関わり方	見守りや声かけに加え、新しい遊びの仕掛けや環境をつくり、子どもの自発的な活動を支える。	遊具の見守り、受付・出入口の確認、清掃に加え、保護者との会話、相談へのつなぎ、一時預かり等を担う。
保護者支援	ホールでは、親子の遊びや職員との関わりを通じた支援が確認された。同じタントクルセンター内には子育て支援センター等もある。	ヨガ・骨盤ケア等の講座、一時預かり、情報提供、交流、相談を組み合わせ、保護者の休息や気分転換を支える。
子どもだけの利用と預かり	条件を満たした小学生以上の単独利用は、一般の遊び場利用であり、保育としての預かりとは異なる。	一般利用とは別に、登録・予約による一時預かりを実施。用事や保護者の講座参加を支える。
安全管理の具体策	子どもの挑戦を見守り、適切に声をかける。日々の点検と、難易度や経路を考慮した遊具の構造を組み合わせる。	保護者同伴、受付済みホルダー、出入口の確認、持ち物の管理、遊具付近の見守りなどを組み合わせる。
運営主体と人数	「NPO法人クリエイティブがしねがセンター」の運営業務を受託。ホール内の基本配置は平日3名、土日祝日5名との説明。	指定管理者は「東京ドームグループ」。スタッフ30名で管理。
魅力を保つ取組	職員が身近な素材や空間を生かして遊びを工夫する。絵本の空間への変更や、大規模改修での遊具更新も実施。	日常清掃・点検、専門的なメンテナンスに加え、大規模でない遊具のリニューアルを不定期に実施。

※けやきホールの「平日3名・休日5名」はホール内の配置人数、げんキッズの「30名」は管理に携わるスタッフ数であり、そのまま人員の多寡や運営効率を比較することはできません。また、けやきホールとげんキッズでは、比較している施設・サービスの範囲にも違いがあります。

【ポイント】

考え方の違いが特によく表れているのは、「子どもが繰り返し来る意味」と「保護者が来館する意味」です。

東根市の「けやきホール」では、同じ遊具でも子どもが遊び方を変えたり、以前できなかった高さや経路に挑戦したりすることで、成長を実感できるよう工夫しています。職員も、遊び方を一方的に教えるより、**子どもの発想や挑戦を支える関わりを大切にしている**と捉えられます。

天童市の「げんキッズ」では、子どもが遊ぶための来館が、保護者の交流や相談、講座、一時預かりにもつながります。**子どもの遊びを保障するとともに、保護者が休息し、必要な支援を受けられる仕組みが具体的に整えられている**点が参考になります。

平川市で検討する際には、けやきホールの「**主体性と挑戦を育てる遊びの環境**」と、げんキッズの「**保護者も支えるサービス**」を組み合わせる視点が有効と考えます。

まず、乳幼児の親子利用、小学生の放課後利用、一時預かりなど、保障したい活動を明確にし、それに応じた空間、利用条件、人材、運営費を設計することが重要です。

以 上